

# 仕事と遊びを充実させる 2台のオールペイントVAN

オールペイントは、クルマのイメージを一変させる大技の一つ。  
質実剛健なイメージのVANも、ペイント次第でガラリーとイメチェンすることが可能なのだ。

FOR

FUN

エー・ディーアンドシー  
荒川浩司さん

建築事務所「エー・ディーアンドシー」代表。デイトナハウスやトカイナカ不動産といった大型プロジェクトから、店舗や住宅の設計、施工まで幅広く手掛ける。アウトドアホビー好きで今まで乗り継いだキャンパーは4台、ワゴンも愛車として所有している。

www.adandc.jp

FOR

WORK



## MERCEDES-BENZ SPRINTER CAMPER

スプリンターはメルセデスベンツ製のフルサイズバン。欧州を中心に世界各国に輸出されており、北米でダッジブランドで販売されていたこともある。ホイールベースやルーフ高に様々なバリエーションがあり、キャンパーのベースとしても人気が高い。荒川さんのスプリンターは2004年式で、「レクヴィ」がキャンパーに架装したものを2年前に中古で購入。ディーゼル仕様で燃費も◎。

燃費性能に優れる  
ディーゼルキャンパー

「ヨーロッパっぽい雰囲気にしたかったんですけどね」ということで、色見本から選んだのは明るいマリンプール。さらに「本当はパネルバンが欲しかった」ということで、窓にフィルムを貼り、窓ごとペイントを施した。この窓のパネル化により、色が入る面積が増えてよりイメージが一変。前後バンパーはブラックアウトする

いる荒川さん。「デイトナハウス」プロジェクトにも深く関わり、世田谷ベースのリフォームも行ったり、本誌とも関係が深いお方だ。建築関係に従事しているので仕事クルマはおのずとVANになるのだが、荒川さんが仕事で使うニッサンNV200は、華やかな色にオールペイントされて少しも泥臭さの無い見た目に仕上がっている。

この2台のオーナーは、建築事務所「エー・ディーアンドシー」を率

ここで紹介する2台のVANは、そんな常識を覆すようにオールペイントが施されている。仕事用、遊び用とその用途は違うが、色を塗り替えることでクルマとしての新たな個性を与えられ、VANの新たな魅力を引き出している。

3×6板が入る  
現場の頼れる相棒



## NISSAN NV200

日産のライトバン「パネット」の系譜を受け継ぐ現行車種。トヨタのタウンエースが競合車種だが、こちらは若干全長が短く基本的な建材のサブク板(3尺×6尺)が入らないということで、荒川さんはNV200をチョイス。NV200には純正のパネルバンも存在するが、その場合2名乗車仕様のみとなるので、5名乗車仕様をベースにパネル仕様にカスタムした。ちなみに新車で購入。



キャンパーならではの効率的な空間設計

車内は荒川さんファミリー4人が過ごせるちょうど良いサイズ。ソファを組み替えることで4ベッドが出現し、シンクやトイレもある。トイレは車体最後部に配置され、リアゲートからのアプローチも可能。トイレはTHETFORDのポータブルタイプだ。



FOR WORK NISSAN NV200



FOR FUN MERCEDES-BENZ SPRINTER CAMPER



荒川さんの手で各所を改修中

購入後に早速各所に手を入れており、ソーラー発電パネルと大容量リチウムイオンバッテリーを追加したほか、助手席同様に運転席も回転できるように改造。その他細かい棚類も製作して、使い勝手をよくしている。今後は天井と壁を作り直し、ダウンライトを入れて室内の雰囲気向上させる予定だとか。



車体左側にはサイドオーニングも設置済み。スプリンターの全長に合わせたサイズなので、かなりの大きさだ。夏場のキャンプではたっぷりとした日よけ空間を提供してくれる。



ヒッチメンバーはあると便利な装備のひとつ。荷物や自転車を積むキャリアアートを付けてもいいし、トレーラーを牽くことも可能。ここに付けるハンモックもあるので利用法は様々。



車体後部に配置されていたエアコンの室外機は、スヘアタイヤの場所へと移設しスペースの節約に貢献。横向きでもちゃんと稼働するように、中身も改造されている。



ショップロゴが良い雰囲気

オールペイントしただけでなく、ショップロゴを入れることでVANらしいカッコ良さが増している。使う色数、文字の大きさや配置のバランスと、実はセンスが要求される作業でもある。



ライトバンながら広めの荷室

荷室の中には現場で使う様々な道具が入れている。大物を運ぶときは別で所有しているハイエースの出動となるので、NV200が積む荷物はこの程度。荒川さんがNV200をメインで使っているのは、狭い住宅街でもスイスイと入って行けて、置き場所にも困らないからだろう。



窓にシートを貼ってパネルバン仕様に

純正のパネルバンは2人乗り仕様で不便なので、2列シートの5人乗り仕様をベースにパネルバンへとカスタム。といっても鉄板を溶接するというような大技ではなく、窓にシートを貼ってその上からペイントして完成。車体に塗る塗料をそのまま吹けるシートがあったことから、この方法が可能になった。



ブラックアウトも効果的

黒い樹脂バンパーは純正のままだが、バンパーとライトの間に入るパネルもブラックアウトしてバンパーと一体感を出しているのが荒川さん流のアレンジ。同時にグリルのニッサンエンブレムも黒くしてあるので、フロントマスクはかなり引き締まった印象へと変わっている。



商用車としての使い勝手が色々と考えられており、助手席は折りたたむことでテーブルに早変わり。ノートパソコンや図面を広げたり、休憩中に食事をしたりと色々役に立つ。



インテリアもノーマル。2年前に新車で買っているのに、クリーンな状態を保っている。5ナンバーサイズのボディでハンドルも切れるので、狭い都内の現場でもスイスイと走れる。



タイヤとホイールは純正のまま。ホイールキャップは付かず、黒い鉄チンホイールをそのまま露出しているのがこのクルマのキャラクターに合っている。

SHOP INFO.

海外製キャンパーのスペシャルショップ

BUDDY-AUTO  
www.lucent-jp.com

BUDDY AUTOは、荒川さんの海外製キャンパーライフを昔からサポートしているショップ。ファクトリーの2Fには同社が展開するレザーギアのお店「STURDY」のショールームも。

「VANはモノもヒトも自由に詰め込んで、好きな場所に行ける楽しい箱。グルメなのだ。」

「僕はそのものの改修にも余念が無い。北米製キャンパーは車内が広く内装も豪華で、設計思想的に、家を外に持ち出す。感覚があるが、一方欧州製キャンパーは、キャンピングのシンプルな作りであることが多い。荒川さんの様に内装製作を自ら行える人にはこのシンプルさがメリットで、既に各部を自分仕様で改修済み。今後も天井や壁を貼り替え、照明も替えるなど内装をコツコツ仕上げていくそう。家族は以前のアメリカ車のほうが広くて良かったって言うてますけどね(笑)」とのことだが、家族4人でこのスプリンターで大阪や出雲大社に行くなど既に活躍中。

VANはモノもヒトも自由に詰め込んで、好きな場所に行ける楽しい箱。グルメなのだ。

「自分でやる意味は、荒川さんはペイントだけでなく、キャンピングカーとしての使い勝手が色々と考えられており、助手席は折りたたむことでテーブルに早変わり。ノートパソコンや図面を広げたり、休憩中に食事をしたりと色々役に立つ。」

「そしてこのスプリンターも、外装を丸ごとオールペイント済み。スプリンターの様なフルサイズバンをペイントするのはかなりコストが掛かるが、その分効果は絶大。キャンパーといえば白ボディ&カッティングシートで仕立てるものばかりなので、そのイメージから離れた自分だけの1台を持つ優越感、コストに代えたいものがある。近年のアウトドアブームを経て、キャンピング道具の色味やデザインもずいぶん多様化してきているが、キャンパー×オールペイントの組み合わせも、今後もっと広がっていくかもしれない。」

「このスプリンターも、外装を丸ごとオールペイント済み。スプリンターの様なフルサイズバンをペイントするのはかなりコストが掛かるが、その分効果は絶大。キャンパーといえば白ボディ&カッティングシートで仕立てるものばかりなので、そのイメージから離れた自分だけの1台を持つ優越感、コストに代えたいものがある。近年のアウトドアブームを経て、キャンピング道具の色味やデザインもずいぶん多様化してきているが、キャンパー×オールペイントの組み合わせも、今後もっと広がっていくかもしれない。」

